

# マレビット・ライブ vol.1

▶日時：2011年5月7日(土) 15:00~18:00

▶場所：生祥児童公園(京都市・麩屋町六角通り南西角)

\*無料・予約不要 \*上演時間中、途中出入り自由

---

マレビットの会では、2012年に新作を発表することを目指して、上演のための継続的な習作の発表と試演会を「マレビット・ライブ」と題し行います。「マレビット・ライブ」では、毎回、劇場外のさまざまな場所を舞台に上演します。

## ▶▶マレビット・ライブ 次回予告

vo.2) 2011年6月4日(土) ※場所・時間は5月21日頃にweb上で発表します

vo.3) 2011年7月9日(土) ※場所・時間は6月25日頃にweb上で発表します

---

## ▶▶マレビット・スタディーズ予告

マレビットの会で実践してきた演劇表現をもとに、演劇をめぐるさまざまな言説を丹念に見つけ出し、それについて考えるための機会とそこから生み出される思考を「マレビット・スタディーズ」と呼び、2011年度に数回、テーマを設けた公開勉強会を行います。

### マレビット・スタディーズ vol.1 テーマ：「女優論」

▶スピーカー：池内靖子(演劇・パフォーマンス・ジェンダー研究/立命館大学教授)

永井愛(劇作家・演出家/二兎社主宰) 松田正隆(劇作家・演出家/マレビットの会代表)

▶日時：2011年6月27日(月) 19:00~21:00

▶会場：京都芸術センター ミーティングルーム2

▶参加費：無料

▶申込み：京都芸術センター窓口/電話 075-213-1000/メール [marebito.studies@gmail.com](mailto:marebito.studies@gmail.com)

---

▶プロジェクトメンバー：生実慧 今野恵子 島崇 西村麻生 松田正隆 森真理子 山口恵子 和田ながら

▶協力：ごまのはえ 武田暁 山口春美

▶主催：マレビットの会(606-8205 京都市左京区田中上柳町21-3, MAIL [info@marebito.org](mailto:info@marebito.org))

▶助成：公益財団法人セゾン文化財団

▶マレビットの会プロフィール：2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。代表の松田正隆の作・演出により、2004年に第一回公演『島式振動器官』を上演。2007年に発表した『クリプトグラフ』は、カイロ・北京・上海を巡演するなど、その活動は海外にも広がる。主な作品に『声紋都市一父への手紙』『PARK CITY』『都市日記 maizuru』『HIROSHIMA-HAPCHEON：二つの都市をめぐる展覧会』など。マレビットの会や本プロジェクトの詳細はweb(<http://marebito.org/>)をご覧ください。

マレビットの会 <http://marebito.org/>

マレビットの会 twitter [http://twitter.com/marebito\\_org](http://twitter.com/marebito_org)

マレビット・ライブ twitter [http://twitter.com/marebito\\_live](http://twitter.com/marebito_live)

# マレビット・ライブ vol.1

▶日時：2011年5月7日(土) 15:00~18:00

▶場所：生祥児童公園(京都市・麩屋町六角通り南西角)

\*無料・予約不要 \*上演時間中、途中出入り自由

---

登場人物 緑下 稲光(三男)  
緑下 陽(長男)  
マリー(陽の恋人らしき女)  
緑下 ユミ(稲光の姉/家出していないが幻影で現れる)  
恐喝する男  
言葉を分かち合う女

---

## 「N市民 緑下家の物語」①

N市は、1945年の原子爆弾投下によって廃墟となった。その後、日本の経済成長とともに復興を遂げ、廃墟の経験は次第にN市民の記憶の中から消え去っていった。

緑下家が県北部の離島からN市中心部に移住したのが1970年代後期、父、緑下川音(みどりしたかわおと)は工業高校の国語の教師をしながら、母、美濃(みの)とともに三人の子供を育てた。

主人公の孤独な青年、緑下稲光(みどりしたいなみつ)はその三男である。稲光は、ひとり言を言うのが癖である。目に映る光景を言葉で描写しテープレコーダーに記録するという地味な趣味がある。ひとり言以外はほとんど無口で、割に合わないその場しのぎのバイト生活を続けている。

長男の名前は、陽(よう)。陽は右翼団体のリーダーの「ボス」という男からクズのような仕事をもらい生活している。ハマノ町の居酒屋で働くマリーという恋人がいる。

次男の名前は、次男(つぎお)。次男は、生まれて三時間で息を引き取ったが、母がせめて名前だけでもと、埋葬時に「次男」という名前を父によって付けられ、緑下家の墓に刻まれたのである。次男は、稲光の口をかりてN市の世界へと顔を出すことができるようである。稲光がしきりにひとり言を言うのは実は亡霊となった次男との対話でもあるのだ。

陽と稲光には、ユミという一人の姉がいる。ユミは突然失踪し、行方知れずである。噂では勤めていた会社の上司との関係に原因があるとされたが、それも噂だからさだかではない。時々、稲光はN市の街角でユミの幻影を見たりする。

ある日(2011年5月7日)、公園でいつものように声の記録をテープレコーダーに吹き込んでいた稲光のもとに兄の陽が現れる。彼はボスから市長の殺害計画を密かに聞かされたことを稲光に告げるのである。

---

\*上演テキストは、上演後マレビットの会ウェブサイトにて公開します。

マレビットの会 <http://marebito.org/>

マレビットの会 twitter [http://twitter.com/marebito\\_org](http://twitter.com/marebito_org)

マレビット・ライブ twitter [http://twitter.com/marebito\\_live](http://twitter.com/marebito_live)